



伊丹賛歌の碑

遺産を実感することができる。  
 水野は、昭和38年（1963）7月、外務省の日仏国際交流の要請によって、所有の琴をパリ音楽図書館に寄贈し、菊井富美子箏曲演奏会を現地で開催し喝采を浴びた。そして勲章を授与されている。  
 昭和41年（1966）、名品の邦楽器約70点を大阪音楽大学に寄贈、水野の胸像とともに常設展示されている。生涯の多くを邦楽の普及発展に努めた水野は、昭和47年（1972）死去。時代の波とともに丹水会館はなくなつたが、伊丹賛歌の碑はいま、旧地の一部に残されている。なんとかこの碑を伊丹の歴史文化財として末永く残したいものである。

（森本啓一・記）



宮城道雄氏来伊記念写真(岡田家で)  
 前列左:水野佐平、左から2人目:宮城道雄、右から2人目:岡田利兵衛

# 郷土伊丹の先人 箏制作家 水野佐平物語 残したい伊丹賛歌の碑

伊丹で箏（琴）を制作し、和楽器を収集していた水野佐平（1891〜1972）が、亡くなって35年たった。この水野の足跡については、あまり知られていないので、ここで少し触れておきたい。

伊丹市宮ノ前通りの水野楽器店店主だった水野は、昭和26年4月、猪名野神社東側に、邦楽演奏場として丹水会館を建設した。丹水の名は郷里伊丹と姓の水野から一字ずつとった。

## 琴の名演奏家、 宮城道雄来伊

この会館のこけら落としに、日本箏曲界の第一人者で名曲「春の海」で知られる宮城道雄を招聘した。六段の曲から、春の海、水の変態、さくら変奏曲などを弾き、溢れた館外の聴衆にまで深い感動を与えた。

宮城は神戸で生まれ、幼少のころ母が家庭の事情で実家に帰り薄幸であった。2歳のころから視力が減退し学校へ通うのを諦めなければならなくなった。

祖母に頼んで連れてってもらい学校の門柱を撫で、学校を楽しんだという。曲の間にそんな話もあった。  
 演奏の翌朝、伊丹の東を流れる猪名川へいききたいといわれ、その堤をしばらく歩いた。与謝蕪村の「春風馬堤曲」の作曲の想を練っておられた。そのときの模様を国文学者であり、伊丹市長であった岡田利兵衛は、随想のなかでくわしく記している。

## 有明の岡に栄える伊丹市 と碑に刻む

水野を含めた3人の談論風発、そのとき水野は、今日の記念にと丹水会館歌の作成を2人の巨匠にお願いした。  
 快く岡田が作詞し、宮城が「大勢で合奏できるようオーケストラ風」に作曲した。水野は、詞の3番目の「有明の岡に栄える伊丹市」の一節と「水野佐平のために」の文字を石に刻し、丹水会館の敷地内に建立した。私たちは、この碑の前に立ち、詞を読むことによつて3人の先達のふるさとの文化

## 岡田が作詞した「伊丹賛歌」



息毛鳥猪名の川瀬の水の音  
 その名も高き美し酒 造りしさまに  
 清けくも澄みて変わらじ弥遠に

有馬山昆陽野を行けば  
 秋の田の  
 垂り穂の稲葉風そよぎ 玉と  
 貫く白露の輝きわたるいやちこに

有明の岡に栄ゆる伊丹市の  
 文化のかほり魁けて妙なる楽の  
 いく調べ、この館ゆ響く

柿衛作